

中小企業ぎふ

2014

10-11

Vol.633

2014年11月25日発行

～ 立ちあがろう中小企業、日本のために ～



クローズアップ企業

2～3

岐阜メンズファッション
工業組合
組合員

「三敬株式会社」

- 会員組合紹介 4～5
- 中央会の活動 6～9
- 組合等の活動 10～11
- 10月の景況レポート 12～13
- 職員レポート 14
- インフォメーション 15
- 青年中央会
40周年記念事業の案内 16



“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市藪田南5丁目14番53号 ふれあい福寿会館9階
TEL 058 - 277-1100(代) FAX 058-273-3930
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

クローズアップ企業

三敬株式会社

【岐阜メンズファッション工業組合・組合員】



【企業概要】 岐阜市茜部大川1丁目10番地

三敬株式会社 代表取締役社長 園部 泰敏

<http://www.gifu-sankei.jp/index.html>

第二次大戦後、岐阜駅前地区に生活物資のマーケットが発生し、ここを中心に衣料品の取り扱いが行われる集散市場が形成されました。昭和20年代後半には衣料品製造卸の形態へと変化し、約50企業で岐阜紳士服卸商同業会が発足しました。同35年には「中小企業団体の組織に関する法律」に基づき岐阜紳士既製服工業組合が設立され、平成9年に岐阜カジュアルウェア協同組合と合併したのを機に「岐阜メンズファッション工業組合」へと名称変更が行われました。

組合員の減少が続く中で、組合では他機関主催の展示会等に積極的に協力・参加し、組合員向けの研修会なども開催しており、組合員の中には増収増益を続けている企業もあります。

そこで、海外に生産拠点を求める時代の中で「Made in Gifu」にこだわり続ける「三敬株式会社」を訪問し、園部泰敏社長にお話をうかがってきました。

◎御社のこれまでの沿革について ご紹介ください。

☞ 園部社長

戦後間もない頃に父親が一宮で洋服の裏地を仕入れて名古屋で行商を始めたのが当社のルーツです。その後、1961年に岐阜の間屋町で衣料品の製造卸を行う会社を設立しました。コートを中心に取り扱い、国内でベスト10に入るほどの扱いがあったため、当時は“コートの三敬”とも呼ばれていました。しかし、車社会が到来してコートが売れなくなったため、ブルゾンやジャンパーへと移行しました。商売は「仲間売り」と呼ばれる形態で、間屋町に卸していましたが、間屋町が下降へと転じたこともあり、私が社長に就任した頃から「SHIPS」や「BEAMS」といったブランド服のOEMを始めました。現在はOEMが中心でメンズ服からシャツやパンツなど、何でも作っています。

当社では7年程前にスポーツウェアの部門を立ち上げて、現在「Razzoli」ブランドを展開しています。Razzoliとはイタリアにある小さな島の名前が由来で、サッカーJ3の藤枝MYFC(静岡県)のオフィシャルスポンサーとしてユニフォームを提供しているほか、FC岐阜のプレイヤーズサプライヤーにもなっており、サッカーウェアを中心に販売を進めています。



園部泰敏社長

◎御社の特徴や方針を 教えてください。

☞ 園部社長

当社は、お客様から依頼のあった商品の型紙から生地、付属品まで用意して、メーカーに縫製してもらい商品をお届けしています。昔は在庫を抱えてやっていたのですが、今は商社的な色合いが強くなり、ほぼ「注文＝発注」というスタイルになりました。

当社の特徴は何といても「Made in Gifu」です。何でも「岐阜」にこだわっています。岐阜支店がある所から生地や材料等は購入しますし、極力岐阜のメーカーに加工をお願いしています。よって、取扱品の約95%は「Made in Gifu」です。

当社の方針は、縫製関係であれば何でも作るようにしています。難しい仕事であっても出来る限り「無理」とは言わない。大変な仕事ほどその後の仕事に繋がるケースも多く、どこの会社からも断られた仕事など、困った時の最後の砦のような役割を目指しています。まずはやってみることが大事で、その積み重ねが会社の底上げに繋がると思っています。



展示会での出展ブース

◎組合に期待することは何ですか？

園部社長

組合にはとても感謝しています。仕事の面や行政等とのパイプ役など、アパレル業界のまとめ役として様々な支援をしてくれています。また、野口理事長をはじめ、業界の皆様にも大変お世話になっています。組合の中で当社は異業種の部類に入り、他社と仕事が重ならない部分が多いため、総会等でお会いした際はいつも声を掛けていただき、色々な情報やアドバイスをいただいております。

毎年、岐阜のアパレル業界が中心となりファッションイベントを開催していますが、私はもっと他の業界と一緒に出来ないかと思っています。例えばFC岐阜がホームゲームを行う際には、試合前に競技場でファッションショーをするといった企画も面白いと思います。アパレルに限らず他の地場産業も同様だと思いますが、製品のPR方法を工夫すれば、岐阜の魅力をもっと多くの人に伝える事が出来るのではないのでしょうか。他の業界とのコラボは、お互いの相乗効果となりますし、岐阜のアパレルと連携することは、きっと連携先からも歓迎してもらえそうです。

◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

園部社長

経営理念は「感謝 そして 笑顔 ありがとう」です。当社にかかわる全ての人・物(会社等)と共生し、共に喜びを分かち合い、事業活動を通じて、地域社会に貢献していくことを大切にしています。

また、当社では“岐阜のアパレルの火を消さない”を合言葉にしています。従業員には「岐阜」にこだわり、地元を常に意識するように伝えています。私は多くの人から商売を助けてもらいました。人との出会いからお仕事をいただき、また知り合った人から新しい出会いや仕事を紹介していただきました。お陰様で素晴らしい方々に巡り会うことができ、「人」が財産であるとしみじみと感じています。

もう一つは、上手く表現できませんが、私は今まで色々な事から逃げてきた様に思います。しかし、ある友人から「決して逃げない」という姿勢を身を持って教えられました。

これからの人生、どんな事からも決して逃げずに立ち向かっていきたいと思っています。

◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

園部社長

30代半ば頃に私は父から会社を引き継ぎましたが、就任当初はこの会社を潰さない事が自分に与えられた使命だと思えました。会社の規模を縮小し、商売の形態を変えて頑張ってきたこともあって、現在はウェアブランドの展開が出来るような会社になりました。これからは、自分が学んできた事を次世代に伝えていくことが使命だと思っています。その一つとして、縫製学校などとの連携を考えています。岐阜には縫製の先生と呼べる方々が沢山おられるため、当社の仕事を通じて若者に縫製技術を伝授するような事業がしたいです。こうした取り組みが“岐阜のアパレルの火を消さない”ことに繋がると考えています。

当社は、岐阜が大好きな人が集まり、ワクワクする仕事出来る会社を目指しています。自分が楽しいと思える話はお客様にもそのワクワク感が伝わりますし、仕事が楽しくなります。目標の一つにサッカー日本代表(フル代表じゃなくても可)のユニフォームを「Razzoli」にしたいと思っています。なんだか夢があってワクワクしませんか？実現には高いハードルが幾つもあると思いますが、従業員と共にチームワークを大切にして、夢の実現に向けて「岐阜」から発信していきたいと思っています。



ユニフォームを提供する藤枝MYFC

【組合概要】

岐阜メンズファッション工業組合

理事長 野口千寿雄 (かねせん株)・会長)

〒500-8175 岐阜市長住町5-7-5

組合員数：34社

主な事業：販売・情報・生産・技術に関する教育情報事業





組合紹介

こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動が続けられていますので、皆様の仲間を紹介します。

岐阜食品青果協同組合

- 理事長 山口 正行
- 組合員数 300人
- 設立年月 昭和45年10月
- 住所 岐阜市茜部新所2丁目5番地
岐阜市中央卸売市場内
- TEL 058-272-7100
- URL —

◆組合の歴史・活動



武藤副理事長（左）と岩崎事務長（右）

岐阜市中央卸売市場の開設に伴い、18年間に亘って任意団体として活動を続けてきた「岐阜食品小売商連合会」において委員会を特別に組織し、中央卸売

市場法に対処できる協同組合へと発展的に解消改組するための検討を重ねて、昭和45年10月に当組合を設立しました。

青果鮮魚総合食品の販売又は加工を行う事業者920名でスタートした組合の主な事業は、市場で取引した物資の支払代行（共同精算事業）です。同事業は、八百屋等を営む組合員が市場内で卸売市場や仲卸業者より購入した生鮮食料品等の代金を組合が立て替えて仲卸業者に支払い、組合員が組合へ代金を支払うといった仕組みで、各種条件により奨励金が組合員に支払われ、組合も条件に応じて手数料を徴収して運営をしています。全国各地の市場で共同精算事業は行われており、組合員にとって大きなメリットの一つとなっています。

また、当組合では副資材の共同購買も実施しています。組合会館の南側に購買部を設置し、包装紙や袋、消耗品等を組合でまとめ買いをして組合員に提供していますが、ピーク時の組合員数から1/4以下にまで減少した現在では、取扱量も大きく減少してしまいました。その他、学校給食に使われる青果品の納入、岐阜市が行う「岐阜市農業まつり」や市立岐阜商業高校が行う「市岐商デパート」への協力、福利厚生事業では毎年日帰り旅行を実施しています。新たに取り組みとしては、岐阜市中央卸売市場のホームページに組合員紹介コーナーの掲載も始めました。

◆組合が目指す方向性とは

組合員は高齢化しており、組合員の減少に歯止めがかからず、それを止める有効な手段も見つからないのが現状です。大型ショッピングセンターやコンビニエンスストアの台頭など要因は様々ですが、業界は厳しい状況にあります。

こうした中で、一昨年より市場内で「ぎふ市場まつり」を開催しています。このイベントは荷受業者4社をはじめ、仲卸業者で組織する「岐阜中央青果卸売(協)」と「岐阜中央鮮魚卸(協)」、買受人で組織する当組合や「岐阜水産物商業(協)」などで組織した実行委員会が主催して行うもので、生鮮食品の即売市をはじめ、マグロ解体ショーなど様々な催しを行います。昨年は1日で1万人を越す来場者があり、市場をPRするには絶好の機会となりました。

武藤副理事長は「組合員は共同精算事業で恩恵を受けてきた組合であり、今後も同事業を中心に組合は展開していくと思う。高齢化が進む中で、郊外的大型店に行けない買物難民を支えるのは我々のような中小小売店であり、小売業も待ちの姿勢から攻めの時代へと変わってきている。移動販売車による行商など大手がやらない隙間を狙って商売を展開している組合員もあり、組合としても廃業等による減少を少しでも弱める活動をしていきたい。その一つが消費者に市場を知ってもらうために行う『ぎふ市場まつり』であり、市場の活性化が組合員の活気に繋がると思うので、関係機関と協力しながら頑張っていきたい」と今後の抱負を話しました。

「第3回ぎふ市場まつり」は今月30日（日）9時30分より岐阜市中央卸売市場で開催しますので、多くの来場をお待ちしています。

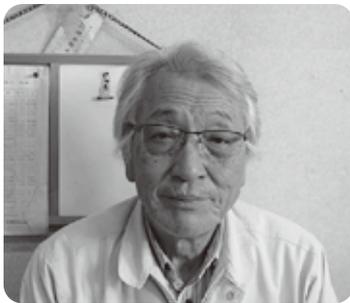


ぎふ市場まつりのチラシ

高山・祭屋台保存技術協同組合

- 理事長 八野 明
- 組合員数 14人
- 設立年月 昭和56年5月8日
- 住所 高山市片野町1丁目117番地の1
- TEL 0577-34-3205
- URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp/yatai/gaiyo.html>

◆組合の歴史・活動



八野 明理事長

当組合設立の根幹である「高山祭」は、「春の山王祭」祭屋台12台、「秋の八幡祭」祭屋台11台で、日本三大曳山祭の1つに数えられています。また、日本三大山車祭でもあり、国の重要有形民俗文化財・重要無形民俗文化財の両方の指定対象となっているのは日本全国で5例しかなく、その内の1例となります。江戸時代、高山市の各町内組織（屋台保存会）が競って造り上げたと言われる「祭屋台」は木工、漆、箔、彫刻、金具、染織、からくりという飛騨の匠の技と心意気が渾然一体となって、国内外から高く評価されており、毎年、春・秋共に18万人から20万人の人出で賑わいます。

その祭屋台の修復を担うべく当組合は、昭和56年『高山市屋台修理技術者認定要綱』に基づき屋台修理技術者として認定を受けた者を組合員資格とし、祭屋台の保存修理を主軸とした協同組合を設立しました。全国で唯一、修繕、復元の全行程7分野を担える技術者集団であり、総合的に復元に取り組める組織は他に類がありません。さらに祭屋台の設計や京都の織物業者へのパイプ役が参画し、これまでに重要文化財のお寺本堂の修復等も手掛け、関わった人達の口コミにより組合の名は全国に広がりました。修復等の準備期間には最低3年をかけ、骨組み、彫刻に適した材の選定、吟味、乾燥、塗りは黒漆塗、金具ほか全て最高の材と技術をもって取り組んだ結果、全国からの依頼が増え『飛騨の匠』は周知されることとなりました。

近年の受注状況は、秋祭りの鳳凰台の尾羽根復元新調、合崎橋高欄デザインパネル工事、他富山、川越、秩父の屋台改修工事をはじめ、今年度も昨年度の受注に加え、富山県射水水曳山車輪修理などがあり、高山春祭りの神楽台修復は平成28年の完成予定となっています。

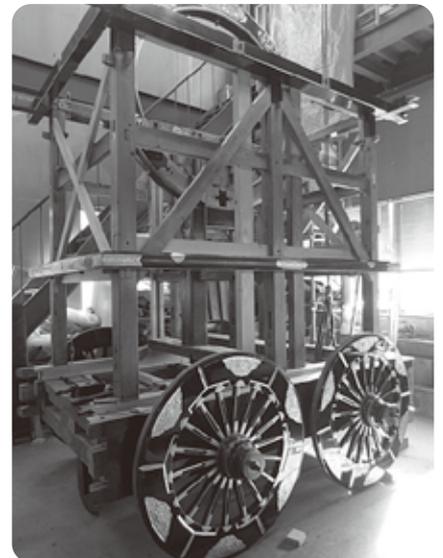
また、設立と同時に後継者育成に取り組み、後継者の会『てわざ会』を発足させ、現在10名が所属しています。

これまでを振り返り特に印象深いのは、祭屋台の新調に出会えたことで、香川県豊浜町の太鼓台、岡山県久世市の檀尻、そして高山市の『まつりの森』に構える8台の『平成祭屋台』です。江戸末期より150年ぶりに匠の技が集結した平成屋台が新造され、運行可能な8m級の屋台、彫刻、金具、横幕、見送りなどを施し、見応えのある祭屋台に仕上がっています。

昭和54年10月に文化庁指導のもと、京都、秩父、高岡、日立、高山が発起人となり『全国山、鉾、屋台保存連合会』が発足しました。現在、同連合会の副会長に國島高山市長が、技術者会の副会長に八野理事長が就任しています。同時に祭屋台製作修理技術者会研修会が年2回開催され、組合からも若手が参加して技術を研鑽しています。さらに高山祭の屋台行事をユネスコの無形文化遺産暫定リストへの記載候補として『飛騨高山の町並みと祭礼の場』を文化庁に再提案しましたが果たせず、引き続き申請して世界にアピールしていくことで、組合の存在について知って頂きたいと思っています。

◆組合の新たな取り組み

八野理事長は、「江戸時代に創建された祭屋台には昔の旦那衆の心意気が詰まっており、職人たちは技術をもって期待に応えるのが飛騨の匠の心情であった。現在も変わることなくその信頼関係は継続され、高山祭は見る人全てを魅了する。地方では時代の流れの中で予算削減、修復の先送り、新規参入等、厳しい現実があるものの、これまで培ってきた技術を駆使して、常に万全な準備をしながら依頼主の期待に応えていく姿勢を変えることはない。10代20代の後継者を育て、技術、人脈、信頼を継承し、併せて積極性、営業力の必要性を説いていかなければならない」と組合の今後について話されました。



春の山王祭 神楽台 (H28年春完成予定)

『**団結は力 見せよう組合の底力!~組合で進めよう!中小企業の持続的発展~**』 **第66回中小企業団体全国大会(東京都)**

全国中小企業団体中央会と都道府県中小企業団体中央会は、組合組織を基盤にして中小企業の安定的な振興発展を目指すため、10月23日(木)に東京都千代田区の日比谷公会堂で「第66回中小企業団体全国大会」を開催した。

この大会は、全国の中小企業団体の代表者が一堂に会し、中小企業者自らが組織する全国約3万組合等の差し迫った意見を総意としてとりまとめ、これを内外に広く表明するとともに、中小企業者による中小企業者の持続的発展のための組織である組合等をはじめとする連携組織の発展に向けた不断の努力を決意することにより中小企業の振興施策の強化、安定した中小企業の成長と豊かな地域社会の実現を図ることを目的としている。

本県からは会員組合など31名が参加。会場内は全国各地から参集した約2,000人の熱気に包まれる中で、全国中央会の鶴田会長が主催者を代表して挨拶し、予定されていたプログラムに沿って議事が進行された。

大会では、「実感ある景気回復と中小企業・小規模事業者の持続的発展」、「地域を支える中小企業の活力強化」等を具体化し、中小企業対策の拡充に関する13項目の決議案が可決決定されたほか、優良組合、組合功労者、中央会優秀専従者の表彰式も行われた。本県の被表彰者は次のとおり。

▽**優良組合**＝高山管設備工業協同組合(倉林雅人理事長)

▽**組合功労者**＝木方伸一郎氏(岐阜県眼鏡商業(協)・理事長)

▽**中央会優秀専従者**＝安田真也

なお、来年の全国大会は平成27年11月20日(金)に沖縄県宜野湾市の「沖縄コンベンションセンター」で開催する予定です。

また、決議事項は次のとおり。詳しくは、全国中央会ホームページからご覧下さい。

(<http://www2.chuokai.or.jp/hotinfo/66zenkokutaikai20141023.htm>)

I. 実感ある景気回復と中小企業・小規模事業者の持続的発展

1. 地域活性化と一体となった中小企業対策の実行
2. 東日本大震災からの着実な復興支援の加速化
3. 東京電力福島第一原子力発電所事故の克服
4. 中小企業・小規模事業者の連携・組織化支援政策の強化
5. 中小企業団体中央会の支援体制の強化・拡充
6. 公正な競争環境の整備
7. 官公需対策の推進・強化

II. 地域を支える中小企業の活力強化

1. 資金調達の円滑化と改訂成長戦略を具現化する金融支援の強化
2. 中小企業・小規模事業者の活性化税制の拡充
3. 商店街等及び中小小売商業の活性化支援の拡充
4. 連携による中小流通業・サービス業の生産性向上の推進
5. 社会保障制度の見直し
6. 中小企業の実態を踏まえた労働・教育対策の推進



全国大会の会場内

『**中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業**』 **2次公募の採択結果並びに公募終了のお知らせ**

国の平成25年度補正予算で措置された「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」の2次公募(8月11日締切)の採択結果が9月29日に発表された。

この期間に全国で申請のあった14,502件について、地域採択審査委員会および全国採択審査委員会において厳正な審査を行った結果、本県からは92件が採択された。

なお、本補助金については予算額に達したため、2次公募をもって申請を終了しました。

採択結果の詳細は、中央会ホームページをご覧ください。

県下3会場で消費税転嫁対策に係る講習会を開催

中央会は、「平成26年度消費税転嫁対策窓口相談等事業」に取り組んでおり、消費税の円滑な転嫁のための講習会を10月2日は多治見市、9日は岐阜市、16日は高山市でそれぞれ開催した。

「消費税の円滑な転嫁のために組合ができること」をテーマに、まずは“転嫁Gメン”（消費税転嫁対策調査専門職員）より、実際に勧告に至った事例を交えて、転嫁拒否をしない、されない為にも、組合員への消費税転嫁対策特別措置法の周知を呼びかけた。また、今尾税理士より、多くの組合が表示・転嫁カルテルを組成している事例から、「消費税による利益の圧迫を回避するためには、点ではなく面で、業界全体が継続的に取り組むことが重要である。表示・転嫁カルテルは、組合員を守るための組合の取り組みとして効果が期待できる」と紹介した。

なお、本会では専門家による個別相談窓口や専門家の派遣、表示・転嫁カルテル組成支援を行っています。詳しくは本会までご連絡ください。



今尾税理士が事例を紹介

岐阜市で「就職マッチングフェア」を開催

中央会は、今年度3回目となる「就職マッチングフェア」を10月22日に岐阜市文化センター1階の催し広場で開催した。

就職戦線も終盤に入り、県内から製造業をはじめ、建設業や卸・小売業、情報通信業といった幅広い業種業態の中小企業85社が出展した。昨今、中小企業における人材不足が叫ばれる中で、中小企業の魅力を確認めようと意欲ある学生らが約150人來場し、関心のある業種や希望職種を募集している企業の担当者から説明を聞く様子が見られた。

なお、今年度の最終となる第4回目は、12月4日（木）にじゅうろくプラザで開催する予定です。詳しくは本会ホームページをご覧ください。



熱心に企業説明を聞く学生

持続可能な『経営計画』作成セミナーを開催

中央会は、「小規模企業振興基本法」の成立などに伴い、小規模企業の活力発揮の必要性が増大していることから、小企業者及び小企業者組合の事業の持続的な発展と活性化を支援するため、10月29日にふれあい福寿会館で「持続可能な『経営計画』作成セミナー」を開催した。

経営革新等支援機関の認定を受けている岡本実穂税理士から、小規模事業者を取り巻く状況や経営計画の必要性、また持続可能な経営計画等について具体例を挙げながらポイントを解説したほか、事業者が利用可能な補助金等についての説明を行った。

岡本税理士は、「経営計画の策定は事業継続と雇用維持のために作るもので、出来栄の良し悪しは関係ない。まずはSWOT分析とPDCAサイクルに自社や自店を落とし込み分析することで経営計画の作成から実行まで行える」とアドバイスした。また、自社経営を有利にするはずの補助金が逆に経営を圧迫したケースも紹介し、活用する際は慎重に判断するよう強調した。



セミナー会場の様子

「組合事務局スキルアップ講座」開催中

中央会では、中小企業組合の活性化のために必要不可欠とされる組合事務局のスキルアップを目的として、「組合事務局スキルアップ講座」を開催している。

同講座は6回の講義メニューで行い、第1回は10月22日に開催し、本会指導員より「組合の基礎知識と事務」について説明した。また、10月29日には、明治大学政治経済学部の森下正教授が「共同事業の活性化策」をテーマに共同事業の成功事例などについて講演したほか、11月11日には今尾信一郎税理士から「中小企業組合の会計」について説明があった。

森下教授は、「組合の強みである『繋がり力』を生かし、課題解決に取り組むべきである」と組合の活性化を図るヒントを紹介した。

今後は、11月28日、12月5日及び12日に講義を予定しております。講義内容等については、本会ホームページをご覧ください。



事例を紹介する森下教授

災害危機等対応力向上セミナーを開催

中央会は、組合及び組合員企業において、BCPの策定（重要業務の選定、減災対策、代替戦略等々）は、大規模災害など発災後、事業を早く再開・継続し、損失を最小限に抑えるために必要であることから、「災害危機等対応力向上セミナー」を大垣市のソフトピアジャパンドリーム・コアで11月7、13日に開催した。

第1部は「BCPが求められる背景と必要性」、第2部は「BCP策定事例に学ぶ」をテーマに実施し、事例発表では岐阜生花市場(協)と関連合刃物(協)から組合で策定したBCPについて説明を行った。

岐阜生花市場(協)の村瀬市場長は「BCPに取り組んだことにより、組合の脆弱性を再確認でき、近い将来の市場経営方針に組み込むことができたのは大きな成果」と説明。また、関連合刃物(協)の水野専務理事は「組合員の企業価値を高めるためには組合BCPが必要と判断して策定した。その後、組合員企業17社のうち5社がBCP策定に取り組んだ」と成果を語った。

BCPの策定は、事業の流れや体制等を検証するため、経営の改善にも役立ちます。BCPに関する質問や相談は、国際課（058-277-1102）までご連絡下さい。



2組合から事例発表

県に対し官公需に関する要望を実施

中央会並びに本会の部会である岐阜県建設関連業団体部会（杉浦匡介部会長）は、県土整備部、都市建築部、商工労働部に対し県の官公需に関する要望を行った。

10月27日に杉浦部会長をはじめ6人の副部会長と本会の洞田専務理事が県庁を訪れ、県土整備部の山本部長並びに都市建築部の高木部長と面談した。始めに杉浦部会長が「地元業者の優先活用と分離・分割発注の推進」など5項目を要望したほか、副部会長から県内の建設関連業界の実情について説明を行い、特に労働力不足や車両不足、材料費の高騰について切実な現状が報告された。山本部長からは公共事業予算の安定確保について前向きな意見が述べられた。



要望書を手渡す杉浦部会長（右）

福井県で開催された「組合青年部全国講習会」に参加

10月4日に福井県あわら市で「全国代表者会議」、「組合青年部全国講習会」、5日には、エクスカーションとして、福井市で「ふくい青中まつり」が開催され、全国から組合青年部員や青年中央会役員ら約200名が参加した。県青年中央会からは丹羽副会長、木藤副会長、青年中央会担当者が参加した。

全国講習会では、発創デザイン研究室 ファシリテーターの富永良史氏より「全国アウ・シル・ツナガル交流会」をテーマに講演が行われた。より多くの参加者と知り合い、つながりを創ることを目的に、他県・他ブロックの参加者と対話しながら交流を深めるワークショップ形式により進められ、密度の濃いコミュニケーションを図ることができた。

また、福井県中小企業団体青年中央会主催の「ふくい青中まつり」では、県内の21組合青年部が組合や青年部、業界のPR等を目的に、趣向を凝らした体験型のブースを出展していた。当日は生憎の天気にもかかわらず、大勢の来場者で盛り上がり、今年で7回目を迎えた青中まつりは地元根付いたイベントとなっている。



コミュニケーションを図る参加者

レディース中央会全国フォーラム2014に参加

全国の組合に関係する女性経営者など約180名が一堂に会し、「レディース中央会全国フォーラム2014」が、10月7日に千葉市のホテルスプリングス幕張において開催され、本会レディースクラブからは8名が参加した。

分科会では、国産Tシャツメーカー3代目経営者で第2創業に取り組む、久米繊維工業(株)の久米信行取締役会長より、「21世紀

日本は世界からモテモテになる！女性の知的好奇心とソーシャル力が日本復興のカギ」をテーマに講演があった。久米会長は「日本女性は世界でイチバン『楽しくてカワイイ』ことに詳しい。このセンスを企業は着目すべきである。また、名刺交換の次はスマートフォンのデータ交換へと繋げ、SNSを活用してビジネスチャンスにすることが21世紀型の経営者である」と実践ビジネスを紹介した。

事例発表では、山梨県ワイン酒造組合の理事長も務める(株)ルミエールの木田茂樹代表取締役社長より「山梨ワイン産業の現況」をテーマに、観光とワインを融合させた新しいワイナリー「ブティックワイナリー」の取り組みや、欧州ぶどうの遺伝子を持つ甲州ぶどうの香り豊かなワインの魅力について発表があった。

また、経済アナリストの森永卓郎氏より「日本経済に何が起きているのか？」と題して基調講演が行われ、リーマンショックからアベノミクスまでの日本経済を解説。「今後の成長戦略の予想として、これから儲かるのは競争に巻き込まれない大手企業。中小企業は“競合しないこと”をキーワードに経営を改善していくことが重要」と話すなど、イタリア型の経営の勧めをユーモアたっぷりに講演し、参加者は熱心に聴講した。

その後に開かれた交流パーティーでは、情報交換や交流が和やかに行われ、閉会にあたり本会レディースクラブの谷田育子副会長が「フォーラムは意義深く充実しており、参加の価値がある。来年の開催地の島根県でまた会いましょう！」と力強く呼び掛けた。



交流会で談笑する本県参加者

<9月21日~30日>

23日 西村内閣府副大臣と地域経済に関する懇談会
(岐阜グランドホテル)

<10月1日~31日>

1日 中小企業団体トップセミナー(都市センターホテル)
2日 都道府県中央会事務局代表者会議・理事会・臨時総会
(ANAインターコンチネンタルホテル東京)
8・20日 特定最低賃金専門部会(岐阜合同庁舎)
21日 岐阜地方最低賃金審議会(岐阜合同庁舎)
23日 第66回中小企業団体全国大会(日比谷公会堂)

<11月1日~20日>

10日 岐阜地方労働審議会(岐阜合同庁舎)
10・17日 岐阜県地域活性化ファンド審査委員会
(ふれあい福寿会館)
13日 岐阜地区における有識者と公正取引委員会との懇談会
(長良川国際会議場)
14日 若年技能者人材育成支援事業連携推進会議
(グランヴェール岐山)
19日 岐阜中金会 設立40周年記念祝賀会(ホテルパーク)

組合等の活動

韓国高校生を組合員がインターンシップ

●岐阜県金型工業組合(黒田隆理事長)

岐阜県金型工業組合は、9月末から3ヵ月にわたり、韓国・光州市の工業高校3校の生徒15人を受け入れるインターンシップ(就業体験)に取り組んでいる。

これは、9月2日に同組合と韓国光州広域市教育庁及び金型産業振興会が「グローバル現場学習」支援を目的とした覚書を締結し、スタートした取り組み。同組合では、これまで県内の工業高校生を対象としたインターンシップに取り組んでいるが、海外からの受け入れは初めてとなる。また、3ヵ月という長期間のインターンシップも業界ではあまり例が無いが、日本の高度な技術や技能の習得だけではなく、仕事に取り組む従業員の姿勢などを学んでもらうため、今回の受け入れを受諾した。生徒達は岐阜大学で基礎を学んだ後、組合員企業5社で機械加工技術などの指導を受けるほか、大垣工業高校との交流や文化交流も予定されている。

覚書の調印式で黒田理事長は、「国際貢献活動は重要である。日本の高い金型技術力を学んでいただくことで、両国の業界の発展に繋がると思う」あいさつした。



加工技術を学ぶ高校生

岐阜市と災害時の輸送協定を締結

●赤帽岐阜県軽自動車運送協同組合(曾根憲一理事長)

赤帽岐阜県軽自動車運送協同組合は、岐阜市と「災害時における物資の輸送等に関する協定」を締結した。

10月2日に岐阜市役所で行われた締結式には細江市長と曾根理事長並びに小島副理事長が出席して書面を交わした。この輸送協定により組合は、災害が発生した際に市からの要請に優先して応じ、資機材や備蓄品を避難所に輸送する。また、市がその費用を負担する。

曾根理事長は、「昨年の岐南町に続いて岐阜市とも災害時の物資輸送協定に調印できたことは非常に意義がある。組合では地域貢献活動に力を入れており、非常時には地域住民の方々のお役に立てるよう一生懸命頑張りたい」と抱負を述べた。



細江市長と曾根理事長(左)

2組合が電気工事の奉仕活動を実施

●岐阜電気工事協同組合(堀口匠理事長)

●多治見地区電気工事業協同組合(大島健太郎理事長)

岐阜電気工事協同組合の青年部は、北方町の1人暮らしのお年寄り宅を回り、電気設備の無料点検を実施した。

今年は9戸を訪問し、使用状況の確認や漏電など電気設備の異常がないかを調査し、それに伴い軽微な改修や電球の取り替えなどの奉仕活動を行った。笠野青年部長は、「30年に亘りこの活動を続けており、青年部事業の一つとして継続していきたい」と抱負を話した。

また、多治見地区電気工事業協同組合は、多治見、土岐、瑞浪の3市の高齢者宅を訪れ、無料電気配線診断を行った。

組合員が23軒を訪問し、漏電チェックやブレーカー点検の配線診断を行ったほか、たこ足配線の防止などについて説明。大島理事長は「漏電などによる事故も報告されており、こうした活動を通じて高齢者に安心して電気を使ってもらいたい」と感想を述べた。



奉仕活動を行った青年部員

さかづき美術館でファッションショー

●協同組合陶の里いちのくら(加藤裕英理事長)

協同組合陶の里いちのくらは、9月28日に多治見市の市之倉さかづき美術館の広場で、美濃焼とファッションの融合をテーマにしたファッションショー「ICHINOKURA COLLECTION (イチコレ)」を開催した。

同組合は市之倉さかづき美術館の運営を主な事業としており、地場産業の活性化や集客を目的に各種イベントを行っている。今回は、組合と服飾専門学校アンファッションカレッジと共催で行い、公募や推薦で選ばれた市民モデルや学生らが参加して、観客約500人の前で「イッセイミヤケ」の衣装や美濃焼をテーマにした自作の創作衣装を披露し、陶磁器産地ならではのファッションショーを行った。

加藤理事長(加藤幸兵衛)は「今後も様々な角度から美濃焼に親しんでもらい、多くの方に美術館を訪れて欲しい」と期待を込めて語った。



幻想的なファッションショー

市役所外構壁面に「メモリアルタイル」を飾る

- 協同組合ケーエスジー（中島猪成夫理事長）
- 美濃タイル商業協同組合（福井克彦理事長）

協同組合ケーエスジーと美濃タイル商業協同組合では、共催して「メモリアルタイル」のデザインとなるイラストを4月より各種イベントを通じて募集してきた。「メモリアルタイル」は、平成27年1月オープン予定の（仮称）多治見駅北庁舎の外壁面を飾るタイルの呼称で、タイルに描かれるイラストを市民から募集することで、タイルの魅力を伝えるのが狙い。

壁面に貼るタイルは10cm角の大きさとなっており、絵や書など様々なイラストが描かれたデザイン画約700枚が集まった。応募されたデザイン画を基にメーカーがタイルに印刷し、焼成後のタイルを市庁舎の壁面に貼り付けるのは11月末の予定となっている。

中島理事長は「タイル自体を一般市民にPRするのは難しいが、このようなイベントを通じて、多くの市民の方々に美濃焼タイルの魅力を知ってもらい、少しでも組合員の受注が増えることを期待している」とイベントの主旨を説明した。

「さるぼぼ」のスペシャルセットを販売

- 飛騨のさるぼぼ製造協同組合（中澤澄夫理事長）

飛騨のさるぼぼ製造協同組合は、JR高山線の全線開通80周年を記念して、飛騨地域の民芸品「さるぼぼ」のスペシャルセットを販売した。

80周年を記念して作製した「さるぼぼ」は、特急ワイドビューひだの車体をイメージして胴体をオレンジ色にし、前掛けには“80”の文字を入れるなど特別仕様のオリジナル商品で、10月4日から大小2体組（800円）限定300個を、高山駅特設売店やキヨスクをはじめ、土日祝日に運行した一部のワイドビューひだの車内などで販売した。

中澤理事長は「記念に限定で300個を作らせて頂いた。皆さんに喜んで頂ければ嬉しい」と話された。



「さるぼぼ」のスペシャルセット

高山市公設地方卸売市場で「市場まつり」を開催

- 高山市公設市場買受人協同組合（林利夫理事長）

高山市公設地方卸売市場の開場40周年を記念するイベント「市場まつり」が、10月5日に開催され、市場内は家族連れなど大勢の来場者で賑わった。

同イベントは、来年3月に開場40周年を迎えるにあたり、高山市公設地方卸売市場40周年記念実行委員会（委員長 林理事長）が中心となって実施した行事で、『来で、見で、体感「卸売市場の“食”のまるごとテーマパーク』をテーマに、消費者と生産者、卸業者が交流を図り、市場のPRを目的に開催した。

会場では、新鮮な海鮮丼や海鮮汁を販売する屋台や、地元農産物を使った加工品などを紹介する地産地消見本市が設けられたほか、マグロの解体ショーや餅まきなどが実施された。

林理事長は、「市場を取り巻く環境は、コンビニや外部資本等の過剰競争により厳しい状況にあるが、市民の皆様には、安心・安全な当市場を利用して頂きたい。また、40周年を迎え先人達の努力に改めて敬意を表し感謝するとともに、節目の50年に向けて更なる市場活性化を期待したい」と話された。



林理事長（中央）と委員会メンバー

◆組合トピックス◆

ホームページを開設しました!

美濃手すき和紙協同組合（武井柳一理事長）は、9月より新たにホームページを開設しました。

同組合は1983年に設立し、組合員が手掛ける「美濃手すき和紙」は1985年に国の伝統的工芸品に指定されています。美濃和紙は、日本国内で作られたとされる最古の紙として、702年の御野（美濃）の国の戸籍用紙が正倉院に所蔵されており、組合員は1300年の歴史が育んできた伝統の技を駆使しながら良質な美濃手すき和紙作りに励んでいます。近年は伝統的に評価の高い障子紙に加えて、薄手から厚手の紙まで現代人の生活に合わせた製品を楮・三椏・雁皮といった伝統的な原材料を使用して製造しています。また、新しい試みを始める若手生産者も増え、透かし模様や独特なデザインの新商品を共同で開発するなど新規需要の創出も数多く見られるようになり、今後の展開が期待されています。

さらに、1969年に国の重要無形文化財に指定された本美濃紙は、ユネスコの世界無形文化遺産に登録される予定で、この貴重な伝統の技と素晴らしい文化を大切に次の世代に継承させるため、日々努力を続けています。

ホームページでは、組合員情報をはじめ、製品一覧などが閲覧できるようになっています。詳しくは組合HP(<http://www.minowashi.or.jp/>)をご覧ください。



公開した組合ホームページ



景況レポート

平成26年
10月末調査
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員70名
(うち70名分の集計)の情報連絡票から

〔I〕10月の特色

- ◆景況感DI値マイナス29
- ◆円安による原材料価格等の上昇に伴い収益が悪化
～収益状況DI値 前月比10ポイントの悪化～

〔II〕10月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、好転8、悪化37で、DI値はマイナス29となり、前月のDI値マイナス27に対し、2ポイントの悪化となった。

さらに業種別の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、製造業のDI値はマイナス12となり、前月比で2ポイントの改善、非製造業のDI値はマイナス48となり、前月比で6ポイントの悪化となった。

なお、回答のあった70業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、菓子、碎石生産、刃物等金属製品(輸出)、可児工業団地、輸送用機器、電気工事の6業種(前月比-2業種)。

また、「悪化」と回答した業種は26業種(前月比-1業種)となり、木材・木製品、小売業、商店街、サービス業の区分が多かった。

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値はマイナス4で前月比11ポイントの悪化、販売価格DI値はプラス2で前月比7ポイントの悪化、収益状況DI値はマイナス38で前月比10ポイントの悪化、資金繰りDI値はマイナス15で前月比±0の横ばいとなり、資金繰りに

外の調査項目において悪化の結果となった。なお、収益状況DI値がマイナス30以下となるのは、昨年の7月以来である。

コメントを見ると、製造業では、「高速道路工事、河川改修工事等が進みつつあり、生産量、製品出荷量とも前年同月を上回る状態(碎石生産)」のほか、砂利生産の業種からも同様のコメントにより売上増の状況が伝えられている。

その他では、「円安の状況にあり、輸出向けには良い環境である。(刃物等金属製品(輸出))」との報告がある一方で、「円安の進展は、海外原材料費の高騰等を招き、商品価格や収益、売上高に大きく影響が出てきている。(家具)」、「為替が急激に円安に振れ、材料の多くを海外に依存している当業界にとっては大打撃である。(鋳物)」など、円安による原材料価格等の上昇に伴う収益悪化を伝えるコメントが多数寄せられている。

非製造業では、「宿泊者数は、前年同月比105.4%と増加している。海外からの宿泊客も前年同月比で130人程増えている。(長良川畔旅館)」、「秋のイベント開催に伴う会場設営及びイベント用看板製作の受注が増えている。(広告美術)」など、プラスの内容が報告された。

一方で、「消費税増税に伴い、販売数、売上金額とも、前年同月比で落ち込んでいる(家電機器販売)」、「中古車販売台数においても、消費税増税後は毎月減少傾向(中古自動車販売)」など、改めて消費税増税の影響によるマイナスの報告も少なくない。

<主な調査項目での動向>

売上高の動向は、前年同月比で増加28、減少32でDI値はマイナス4となり、前月のプラス7に対し、11ポイントの悪化となった。

売上高が増加した業種は20業種(前月比-4業種)あり、菓子、米菓、縫製(既製服)、銘木、プラスチック、生コンクリート、砂利生産、碎石生産、鋳物、刃物等金属製品(輸出)、メッキ、可児工業団地、輸送用機器、機械・工具販売、共同店舗(飛騨)、長良川畔旅館、広告美術、電気工事、室内装飾、軽運送である。

売上が減少した業種は23業種(前月比+4業種)あり、特に小売業、商店街の区分が多い。

販売価格の動向は、前年同月比で上昇17、低下15でDI値はプラス2となり、前月のプラス9に対し、7ポイントの悪化となった。

販売価格が上昇した業種は12業種(前月比-5業種)あり、牛乳、食肉(国産)、銘木、プラスチック、碎石生産、鋳物、刃物等金属製品(輸出)、県金属工業団地、陶磁器産地卸、石油製品販売、飲食業、旅行業である。

販売価格が低下した業種は11業種(前月比±0業

種)となった。

収益状況の動向は、前年同月比で好転7、悪化45でDI値はマイナス38となり、前月のマイナス28に対し、10ポイントの悪化となった。

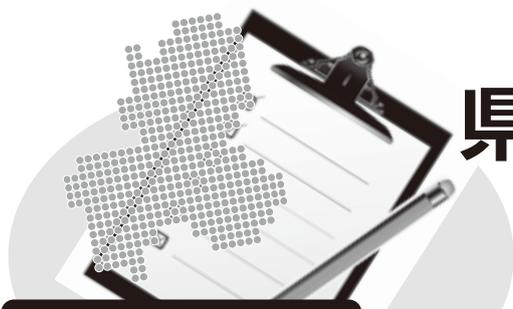
収益状況が好転した業種は5業種(前月比-2業種)あり、菓子、縫製(既製服)、銘木、碎石生産、電気工事である。

収益状況が悪化した業種は32業種(前月比+5業種)あり、特に紙・紙加工品、小売業、商店街、サービス業の区分が多い。

資金繰りの動向は、前年同月比で好転5、悪化20でDI値はマイナス15となり、前月のマイナス15に対し、±0の横ばいとなった。

資金繰りが好転した業種は4業種(前月比±0業種)あり、菓子、可児工業団地、輸送用機器、機械・工具販売である。

資金繰りが悪化した業種は14業種(前月比±0業種)あり、特に商店街の区分が多い。



県内中小企業

(10月末調査)

主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比					
区 分	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
食 料 品	牛 乳	▲	○	△	△	△	△
	食 肉 (国 産)	△	○	△	△	△	△
	菓 子	○	△	○	○	○	○
	米 菓	○	△	△	△	△	△
	製 麵	△	△	△	△	△	△
織 維 ・ 同 製 品	擦 糸	△	△	△	△	△	△
	ニ ッ ト 工 業	△	△	△	△	△	△
	毛 織 物	△	△	△	△	△	△
	合 成 織 維 織 物	△	△	△	△	△	△
	メ ン ズ ア パ レ ル	▲	△	△	△	△	△
木 材 ・ 木 製 品	製 材	▲	△	▲	△	△	▲
	銘 木	○	○	○	△	△	△
	家 具	▲	△	▲	△	△	▲
紙 紙 加 工 品	機 械 す き 和 紙	△	△	▲	△	▲	△
	特 殊 紙	▲	△	▲	▲	△	▲
	紙 加 工 品	△	△	△	△	△	△
印 刷	印 刷	△	△	▲	△	△	△
化 学 ゴ ム	プ ラ ス チ ッ ク	○	○	▲	△	△	▲
窯 業 ・ 土 石	陶 磁 器 (工 業)	▲	△	▲	△	△	▲
	タ イ ル	▲	△	▲	△	△	▲
	窯 業 原 料	▲	△	▲	▲	△	△
	石 灰	△	△	△	△	△	△
	生 コ ン ク リ ー ト	○	△	△	△	△	△
	砂 利 生 産	○	△	△	△	△	△
鉄 鋼 ・ 金 属	碎 石 生 産	○	○	○	△	△	○
	鑄 物	○	○	▲	△	○	▲
	刃 物 等 金 属 製 品 (輸 出)	○	○	△	△	△	○
	刃 物 等 金 属 製 品 (内 需)	△	△	△	△	△	△
一 般 機 械	メ ッ キ	○	△	▲	△	△	△
	県 金 属 工 業 団 地	△	○	△	△	○	△
	可 児 工 業 団 地	○	▲	△	○	▲	○
輸 送 用 機 器	金 型	△	△	△	△	△	△
	輸 送 用 機 器	○	△	△	○	△	○

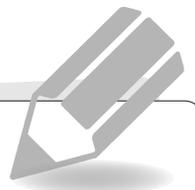
非 製 造 業		前年同月比					
区 分	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
卸 売 業	電 設 資 材 卸	△	△	△	△	△	△
	陶 磁 器 産 地 卸	△	○	▲	△	▲	▲
	機 械 ・ 工 具 販 売	○	▲	△	○	▲	△
小 売 業	青 果 販 売	▲	▲	▲	△	△	▲
	水 産 物 商 業	△	△	△	△	△	△
	家 電 機 器 販 売	▲	△	▲	▲	△	▲
	メ ガ ネ 販 売	▲	△	▲	▲	△	▲
	中 古 自 動 車 販 売	▲	▲	▲	▲	▲	△
	石 油 製 品 販 売	△	○	▲	△	△	△
	共 同 店 舗 (飛 騨)	○	▲	▲	△	△	▲
	生 花 販 売	▲	▲	▲	▲	▲	▲
商 店 街	岐 阜 市 商 店 街	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	大 垣 市 商 店 街	▲	△	▲	△	△	▲
	高 山 市 商 店 街	▲	△	▲	▲	△	▲
サ ー ビ ス 業	自 動 車 車 体 整 備	▲	△	▲	△	▲	▲
	長 良 川 畔 旅 館	○	△	▲	△	△	△
	下 呂 温 泉 旅 館	△	△	▲	△	△	▲
	高 山 旅 館	▲	△	▲	▲	△	▲
	ク リ ー ニ ン グ	△	△	△	▲	△	▲
	広 告 美 術	○	▲	△	△	△	△
	飲 食 業	△	○	△	△	△	△
	旅 行 業	△	○	▲	△	△	▲
	理 容 ・ 美 容 業	△	△	△	△	△	△
	建 設 業	土 木 (岐 阜 地 区)	▲	▲	▲	△	△
土 木 (飛 騨 地 区)		△	△	△	△	△	△
建 築 設 計		▲	▲	▲	▲	▲	▲
鉄 構 造 物		△	△	△	△	△	△
電 気 工 事		○	△	○	△	○	○
管 設 備 工 事		△	△	△	△	△	△
建 築 板 金		▲	△	▲	△	△	▲
室 内 装 飾		○	△	△	△	△	△
運 輸 業	木 造 建 築	▲	△	▲	▲	▲	△
	貨 物 運 送 (県 域)	△	△	△	△	△	△
	軽 運 送	○	△	△	△	△	△

凡 例

○ : [増加]、[上昇]、[好転]

△ : [不変]

▲ : [減少]、[下降]、[悪化]



中央会職員が日々の仕事や生活を行う中で感じていることなどを綴る「職員レポート」。第4回は中央会事務局の“肉食系”（好物は「お肉」って意味です）曾我課長に筆を執っていただきました。



東濃と「やる気」と「根性」

東濃支所 課長 曾我 圭次

日頃は何かとお世話になりありがとうございます。中央会での業務などを振り返りながら、最近思うことなどを書きたいと思います。

私が中央会で働き始めたのは平成3年。バブル経済が崩壊直前といった頃でしょうか。まだその頃は売り手市場と言われ、求人も沢山あったことを覚えています。

中央会に勤務し、組織振興課という部署に配属されました。最初は各事業の補佐的な業務を行いながら、組合という組織形態を学んでいきました。その後、情報企画課に配属され、組合の情報化に携わりました。また、中央会のホームページ開設にも関わり、夜遅くまで内容確認をした思い出もあります。その後は総務関係の業務に就き、約11年間中央会の予算管理や運営業務等を行ってきました。

今までやってこれたのは、会員組合の皆様をはじめ、職場の上司や同僚などに支えられたというのが一番ですが、「根性」でやってきた面もあると思っています。学生時代に運動部に所属していたこともあり、「やる気」と「根性」の精神が培われたのかもしれない。

ここで少し自己紹介を致します。趣味は色々あり、最近では走っていませんがフルマラソンに3回ほど挑戦した経験があります。また、部屋乗りになっている自転車、あがり症のため人前では披露できないギター、木を伐採するために習得したツリークライミング（ロープワーク忘れずみ）、出来の悪い日曜大工に健康診断前の草刈りダイエット等々、多趣味ですが全て底が浅いです。でも、その後に味わう焼肉とビールが一番の楽しみになっています。趣味の種類から私の「根性」が感じられたでしょうか？

ここ数年、春と秋に花粉症に悩まされており、環境に適応できなくなっているのかマスクが手放せません。しかしこれも「根性」で治そうと思っています。

私は、多治見市・土岐市・瑞浪市・恵那市・中津川市を管轄する東濃支所に勤務して4年目を迎えました。本部勤務の頃より組合の役職員の皆様と接する機会が多く、また担当組合もたくさんあってやり甲斐を感じています。東濃地域は地場産業が盛んで、多治見・土岐・瑞浪は言わずと知れた陶磁器「美濃焼」の産地ですが、タイルを含め各市内にも地域毎の産地があり、それぞれ特色があります。また、恵那市山岡町の寒天、中津川周辺の東濃ひのきを中心とする木材・木工、蛭川みかげ石などもあります。秋と言えば栗などの農産物も有名ですし、これからはリニア中央新幹線の話も地域活性化には欠かせません。中央会フェイスブックで各地の組合行事等を紹介したいと思っていますので、是非ご覧ください。

東濃地域には100余りの組合があり、業種や組織形態、規模もそれぞれですが、組合の存在というものに大きな価値があると思います。組合に加入している企業とそうでない企業がありますが、私は組合に所属していることで企業の価値が1ランク上がっていると思っています。組合の魅力を高めればその価値が更に上がります。中央会も同様で、私達職員がスキルアップ等をしていかなければ会員組合にとって魅力ある団体にはならないと思っています。

以前、中央会の指導実務研修に参加した時の講師が「私は色々な資格を取得し、それを強みに企業と顧問契約を結んでいます。私はバスの運転も出来るので、人手が足りない時はお客様の送迎までやる現場主義の中小企業診断士です」と話されました。また「自らピエロの恰好をして街頭アンケートまでやる実践的な中小企業診断士です」とも発言されました。それを聞いた時は面白い人だと思いましたが、その言葉を自分に置き換えてみると、より組合に密着していくことが重要だと改めて思いました。今後も東濃地域の組合のために「やる気」と「根性」で業務に励んでいきたいと思っていますので、何卒よろしくお願いします。

たった今、「やる気」と「根性」でこのレポートを書き終わりました！



日曜大工の棚に収まる
岐阜県が誇るタカミネギター(右)とヤイリギター(左)

秋の叙勲・褒章の表彰

2014年『秋の叙勲・褒章』について、11月2日に褒章、3日に叙勲の受章者がそれぞれ発表されました。中央会関係者の方々は以下のとおりです。

叙 勲

- 【旭日小綬章】 各務 學氏 = 岐阜県木材協同組合連合会・元副会長
- 【旭日双光章】 神野 明氏 = 岐阜県農業機械商業協同組合・元理事長

褒 章

- 【黄綬褒章】 林 謙三氏 = 飛騨信用組合・元理事長
- 【藍綬褒章】 小西輝幸氏 = 岐阜県砕石工業組合・理事長（中央会・副会長）

岐阜県最低賃金は738円です!

岐阜労働局より

岐阜労働局では、「岐阜県最低賃金」を、本年10月1日から時間額738円（改正前の時間額724円から14円の引上げ）とするよう改正しました。

「岐阜県最低賃金」は、雇用形態に関係なく県内の事業場で働くすべての労働者に適用されます（一部の産業には岐阜県最低賃金と特定（産業別）最低賃金のいずれかが高い方が適用されます）。

最低賃金を下回る金額で労働契約を結んでもその契約は無効であり、事業者は少なくとも最低賃金額を支払わなければなりません。

詳しくは、岐阜労働局労働基準部賃金室（電話:058-245-8104）又は最寄りの労働基準監督署までお尋ねください。



製造事業所の皆様へ

平成26年工業統計調査を実施します～経済産業省・岐阜県・市町村～

経済産業省では、平成26年工業統計調査を平成26年12月31日現在で実施いたします。

工業統計調査は我が国の工業の実態を明らかにすることを目的とした統計法に基づく報告義務のある重要な統計です。

調査結果は中小企業施策や地域振興などの基礎資料として利活用されます。

調査票へのご回答をよろしくお願いいたします。

○お問い合わせ先 岐阜県環境生活部統計課 TEL:058-272-8185

経営セーフティ共済(中小企業倒産防止共済制度)のご案内

中小企業経営者の皆さまへ

連鎖倒産から中小企業を守る! 経営セーフティ共済

【経営セーフティ共済】は中小企業倒産防止共済制度の愛称です。

もしも取引先が倒産したら! そのときの備えは万全ですか?

「経営セーフティ共済」に加入していれば、万が一取引先が倒産しても回収困難となった売掛金相当の資金を借り入れることができます。

国のセーフティネット対策の柱の一つです!



ポイント

- ①取引先が倒産した場合、掛金総額の10倍の範囲内（最高8,000万円）で被害額相当の共済金の貸付けが受けられます。
- ②共済金の借入条件は無担保、無保証人。
- ③掛金は税法上、損金（法人）もしくは必要経費（個人事業）に算入できます。
- ④40ヶ月以上納付し、任意解約した場合、100%掛金が戻ります。（12ヶ月未満は掛け捨てです。）

●本制度の詳細はホームページまたはパンフレットをご覧ください。

制度の運営機関：独立行政法人中小企業基盤整備機構 TEL：050-5541-7171（共済相談室）

経営セーフティ共済 検索

岐阜県中小企業青年中央会創立40周年記念
講演会、記念式典を開催します!

記念講演会

(新春講演会)

17:00~18:30

テーマ 『「これまで」の上に成り立つ「これから」
～伝統産業をクリエイティブ産業へ…そのための革新とは～』

講師 **細尾 真孝** 氏 (株式会社細尾 取締役)

1200年の伝統を誇る京都発祥の織物・西陣織。
1688年創業の老舗「細尾」の取締役 細尾真孝さんは
西陣織プロデューサーとして「伝統」を活かしながら商
品や自分たちを革新し続け、2012年秋より6人の同志と
共に世界に目を向けた活動に「挑戦」している36歳の
若き経営者です。
2014年 日経ビジネス誌「日本の主役100人」に選出。
2014年3月 「ガイアの夜明け」に出演。



参加無料 (どなたでもご参加いただけます)

《主催 岐阜県中小企業団体中央会／岐阜県中小企業青年中央会》

40th
NoFun
NoSeichu

40周年記念式典・記念パーティ

18:40~

40周年記念DVD公開、アトラクション

《主催 岐阜県中小企業青年中央会》



[と き] 2015年1月30日(金)

[ところ] 岐阜都ホテル「ボールルーム」

【お問い合わせ先】

岐阜県中小企業団体中央会 国際課 水野・国枝 (岐阜県中小企業青年中央会 事務局)
TEL:058(277)1102/FAX058(273)3930